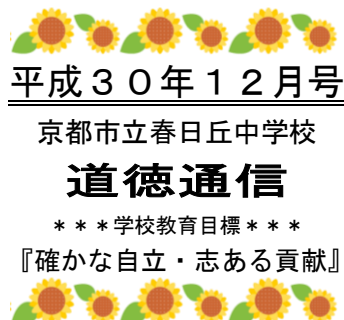




Kasugaoka J.H.S

明日への扉

アスヘノトビラ



平成30年12月号

京都市立春日丘中学校

道徳通信

学校教育目標

『確かな自立・志ある貢献』

実りの秋を経て、間もなくクリスマスと正月を迎えます。皆さんの2学期は充実していましたか。「まだ出来ることがありそう」と、悔いを残した人は、これを読んだ今からでも何かを変えていきましょう。まずは気づくこと。そして、それを実行に移す勇気をもって一歩前へ進みましょう。「誰だって、やれば出来る！」。

今年の日本列島は、自然災害に見舞われた1年でした。前年末からの豪雪で、近畿から北陸への道路は寸断され、多くの車が立ち往生。一転して夏は猛暑の連続で、気温は平年比を大きく上回る日々。地震は6月に大阪府北部を襲い、9月には北海道で最大震度7。加えて、台風も多かったですね。中でも9月の21号は25年ぶりの強風と雨をもたらし、関空を中心に空の便が大混乱しました。地球を取り巻く環境の変化での天変地異なのでしょうか。学習と同じで、日々の準備は欠かせません。

来年、平成31年は、皆さんが新学年、新学期を迎えてすぐの5月1日、皇太子さまが新天皇に即位される歴史的な年になります。現在の「平成」から「新しい元号」へ。“歴史の証人”となるみなさんが、学校生活だけでなく地域や社会など、多くの場面で活躍する人になってくれることを期待しています。



授業の様子を紹介します

“上田萌選手の涙のわけ”

生まれつき耳が聞こえない卓球選手・上田萌さん。京都府舞鶴市で生まれ、5歳のときに福原愛選手に憧れ、卓球を始めます。そして、「やればできる！」ということをもみんなに伝えたい」という強い気持ちから、東京富士大学という卓球の強豪校へ進学します。そこで、仲間に支えられ、卓球と勉強に頑張る萌ちゃんですが、年末実家に帰省し、母の前で涙を流します。その“涙のわけ”を1年生みんなで考えました。



涙のわけは「みんなが、部内の仕事を自分にやらせてくれない。萌ちゃんはやらなくていいよ、私がやるから。」と言われることでした。「みんなは優しい気持ちからそう言ってくれてるのかもしれない。自分の気持ちを言えば？」と母親から言われ、萌ちゃんも変化していきます。萌ちゃんの気持ちを仲間たちが理解し始め、萌ちゃんはより一層目標に向かって頑張ります。耳の聞こえない人々のスポーツの大会～デフリンピックで金メダルをとる～という目標に向かって！

みなさんは、体の不自由な方々と関わることについて、どのように考えますか。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・優しくするのはいいことだからやるべきだと思うけれど、相手によってはその優しさが辛いことだったり、悲しいことだったりするから、相手の気持ちを考えて行動するべきだと思った。
- ・今回の授業で、体の不自由な方への接し方を改めて深く学んだ。体の不自由な方の思いに、私達が寄り添って、その人が本当に「うれしい」「楽しい」と思えるように接していきたいと思った。
- ・体の不自由な人たちと関わっていく中で、同じ人間なのだから相手の気持ちを理解し、困っていたら聞いてあげるといいと思う。差別したり、特別扱いをするのではなく、同じ人間として、関わっていきたい。



“^{るりいろ}瑠璃色の星”

一日ごとに寒く、秋が深まるある日のテーマは、『^{いけい}畏敬の念（敬意を払う一方で、^{おそ}畏れかしこまって近づけないこと）』でした。みなさんは日頃、星空を見上げますか？自然から何かを感じることはありますか？晩秋の星空の動画にうっとり目をうばわれながら、女性宇宙飛行士として旅立った山崎直子さんの体験談を読みました。山崎さんは無重力状態で体が浮かぶ中、まるで宇宙が『ふるさと』のように感じます。それまで行ったことがないのに、宇宙をふるさとのように感じさせたものとは、いったい何でしょうか？私たちの中には誰一人として宇宙に行ったことがある人はいませんが、時には宇宙に思いを馳せるのもいいですね。遠く離れた宇宙を考える一方で、自分たちのことを見つめ直す大切な時間になりました。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・勉強のこととかで大変だけど、宇宙のことを考えたら自分はとても小さな存在だと思った。
- ・宇宙は手には届かないほど大きくて遠い存在。でも私たちは宇宙の下で生きている。奥深くて本当に感動的なものだと感じた。
- ・宇宙にはまだ知らないことがたくさんあるから、魅力を感じるのだと思う。宇宙が生き物の母親で、宇宙がなければ地球も生き物も存在しないので宇宙に感謝したいと思う。



“氷河上の決断”

みなさんは“クレバス”という言葉を知っていますか？今回の話は、雪山に登ったときに、実際に起こったお話です。もし、同じ登山隊のメンバーが転落したら、みなさんはどう行動しますか？もちろん「助ける」という意見が多いと思います。しかし、雪山にはいろんな危険があります。救助活動が続ける中で、次は自分の命が危なくなるかもしれません。そんな状況の中で「生命を大切にする」とは一体どういうことなのでしょう。さて、隊長が下した決断とは？！



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・究極の選択で、命の大切さを感じることができた。命ってすごく大切なんだと改めて感じる事ができた。
- ・今日の話を読んで、すごく悩んだ。確かにみんなの命も大事だけど、落ちた人の命も大事だから、自分がもしこの立場になったら、隊員を全員キャンプのところに帰らせて1人で助けると思う。でも、そのときにならないとわからない。
- ・隊長の判断は間違いではなかったと思う。白水さんの命がなくなってしまったのは辛いことかもしれないけど、隊長として他の隊員を生かして帰ってきたのは、隊長としての役目を果たしていたと思う。
- ・命の大きさは数で決まらないと思う。その命に関わった人が悲しくなるのは変わらないと思う。簡単に命を見捨ててはいけないと思うが、違う人の命も大事だから、考えるのはとても難しかった。
- ・人の命を救うのは当たり前だけど、時と場合によって、人を助けるのを諦めないといけないのが辛いけど、仕方ないのかなと思った。改めて人の命は大事だなと思った。
- ・命については本当に難しいと思った。1人ひとりの大切な命で、誰も失いたくないけど、1人の命と数人の命、どちらかをとるといえるならば、私は命の大きさで決まるのかなと思いました。